

巻 頭 言

別府大学日本語教育研究センター長

松 田 美 香

別府大学日本語教育研究センターは2009年4月に設立されてから、いくつかの留学生の日本語教育のための改革を行って参りました。

平成26年度より「日本語能力試験N1保持者数増」を目指し、学内の学生支援GPを得て、ビジネス日本語科目（B群）を受講している留学生には、一定の手続きをすれば受験料を返還する取り組みを行ってきました。また、研究のための『別府大学日本語教育研究』も、本号で第7号となります。昨年度は、新しい題目で学内GPに採択され、今年2月、首都大学東京の奥野由紀子先生をお招きし、本学でワークショップを開催するなど、昨年度に引き続き研究活動も活発です。今回も本紀要には学外の6名の先生方からの御寄稿と学内2名の投稿が掲載されることとなり、研究の面でもますます特色が打ち出せるようになりました。これも、関係各位の御協力の賜物と心より感謝いたします。

毎年書いておりますが、残念ながら近隣諸国との関係は予断を許さない状況が続いています。本学での日本語教育が、それらの国と日本との「懸け橋」につながっていくようにと願ってやみません。学習者の個性や可能性を尊重してその成長に寄与するものでありつづけたい。本センターは、そのための努力を惜しまず、邁進していくことを誓います。

最後になりましたが、本号の刊行にあたってさまざまな形で御支援をいただいた方々に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

平成29年3月31日